

今月のトピックス

- ┆ 伝染性紅斑が 2011 年以来の流行となっています。
- ┆ 梅毒の報告が近年増加しています。
- ┆ ロタウイルスによる感染性胃腸炎の報告が増加しています。

全数把握の対象

【5 月期に報告された全数把握疾患】

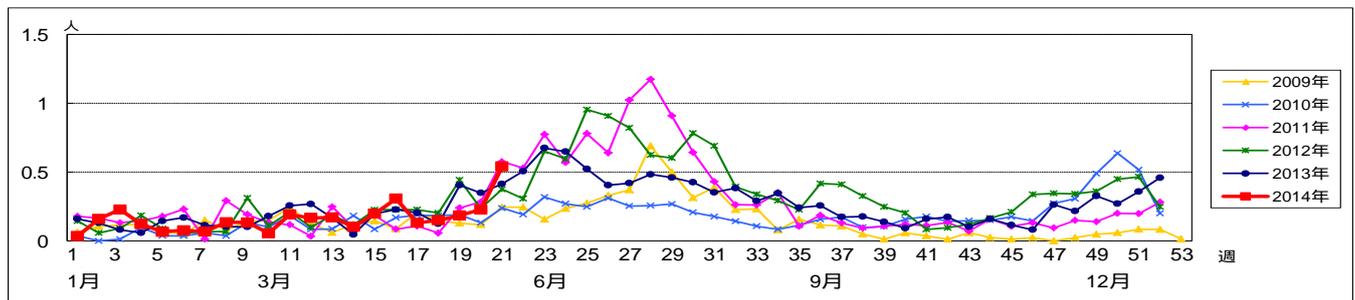
腸管出血性大腸菌感染症	1 件	後天性免疫不全症候群 (HIV 感染症を含む)	2 件
A 型肝炎	1 件	侵襲性肺炎球菌感染症	6 件
デング熱	1 件	梅毒	3 件
レジオネラ症	2 件	風しん	2 件
アメーバ赤痢	5 件		

- 1 **腸管出血性大腸菌感染症**: O26 VT1 の報告が 1 件ありました。感染経路感染地域等不明です。本症は例年夏季にむけて感染者数のピークを迎えるため、今後の注意が必要です。特に抵抗力の弱い乳幼児や高齢者で重症化することがあります。通常、菌は家畜の腸内に存在しますが、新鮮な肉を購入しても表面に菌が付着している可能性があり、生肉を切った包丁やまな板の洗浄・消毒や、焼肉の生肉を取る箸と食べる箸を区別する等の予防対策が重要です。また菌は熱に弱いので、肉は十分に加熱(中心部まで 75 で 1 分間以上加熱)し、生肉や加熱が不十分な肉を食べないことが大切です。
- 2 **A 型肝炎**: 1 件の報告があり、経口感染が推定されています。
- 3 **デング熱**: 1 件のデング熱の報告があり、渡航先(マレーシア)での感染が推定されています。
- 4 **レジオネラ症**: 肺炎型 2 件の報告がありました。1 件は国内での水系感染が推定(現在調査中)されており、もう 1 件は感染経路等不明です。
- 5 **アメーバ赤痢**: 腸管アメーバ症 4 件と、腸管及び腸管外アメーバ症(肝膿瘍) 1 件の報告がありました。腸管アメーバ症の 1 件は国内での経口感染、もう 1 件は国内での感染で感染経路等不明、もう 1 件は中国での感染で感染経路等不明、残るもう 1 件は感染経路感染地域等不明でした。腸管及び腸管外アメーバ症の 1 件は経口感染が推定されていますが感染地域等不明でした。
- 6 **後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)**: 無症状病原体保有者 2 件の報告がありました。どちらも国内での感染が推定されており、1 件は同性間、もう 1 件は異性間の性的接触による感染が推定されています。
- 7 **侵襲性肺炎球菌感染症**: 70 歳代の報告が 5 件(血清型 7 型 1 件、22 型 2 件、他は検査中)、30 歳代の報告(咽頭炎で初発し、髄膜炎発症。基礎疾患無し。)が 1 件(血清型検査中)ありました。すべての報告でワクチン接種歴は確認できませんでした。
- 8 **梅毒**: 3 件の報告があり、1 件は早期顕症 期(丘疹性梅毒疹)で、感染経路感染地域等不明でした。残る 2 件は無症候期で、1 件は国内での性的接触、もう 1 件は感染経路感染地域等不明でした。[国立感染症研究所の報告](#)によると、梅毒は近年全国的に増加しており、特に男性の 25~29 歳で多くなっています。また、男性の 90%近くが性的接触による感染で、男性の同性間性的接触による感染が増加しています。横浜市でも 2011 年 9 件、2012 年 15 件、2013 年 28 件と増加傾向です。感染経路の大部分は、菌を排出している患者との粘膜の接触を伴う性行為や疑似性行為によるもので、オーラルセックスによる感染の危険性があまり知られていないこともあり注意が必要です。また、感染した妊婦の胎盤を通じて胎児に感染すると、先天梅毒の原因になります。
- 9 **風しん**: 2 件の報告があり、どちらも臨床診断例です。1 件は幼児で予防接種歴 2 回有り、もう 1 件は 10 歳代で予防接種歴はありませんでした。

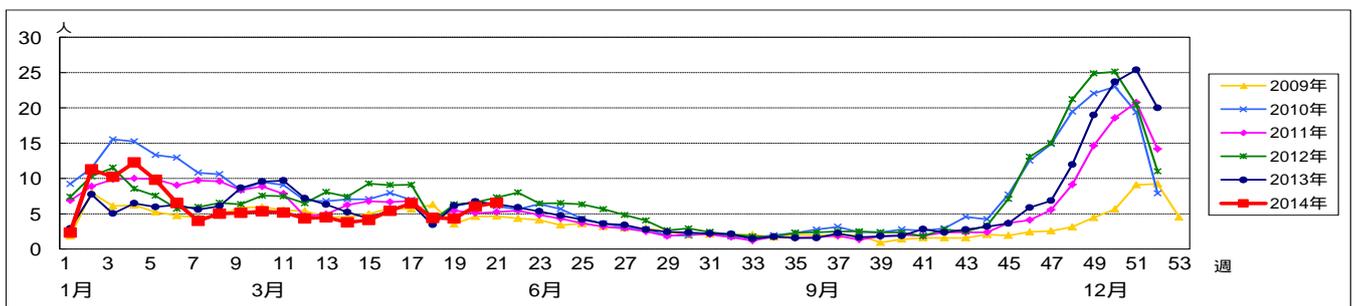
## 定点把握の対象

平成 26 年 週 - 月日対照表	
第 17 週	4 月 21 日 ~ 27 日
第 18 週	4 月 28 日 ~ 5 月 4 日
第 19 週	5 月 5 日 ~ 11 日
第 20 週	5 月 12 日 ~ 18 日
第 21 週	5 月 19 日 ~ 25 日

- 1 **咽頭結膜熱**: 第 21 週は市全体で定点あたり 0.54 と、やや報告が増加していますが、警報発令基準値(定点あたり 3.00)は大きく下回っています。



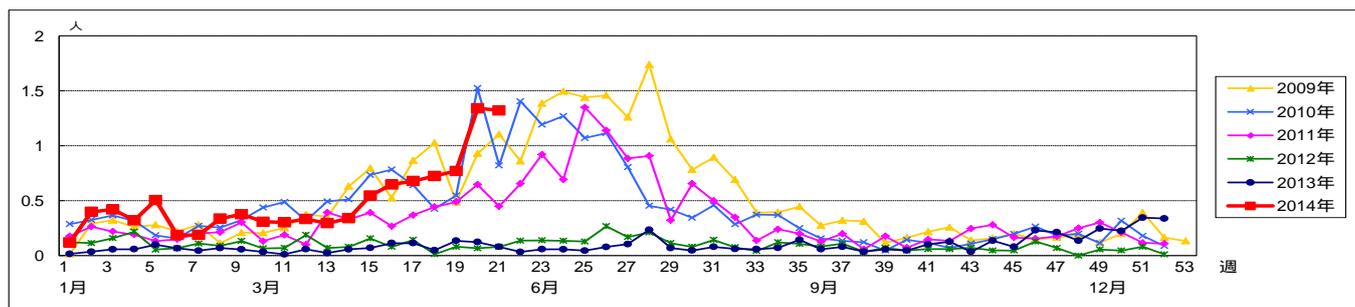
- 2 **感染性胃腸炎**: 第 21 週は市全体で定点あたり 6.55 と落ち着いており、ほぼ例年同様の報告数です。基幹定点からの報告ではロタウイルスによる感染性胃腸炎が増加しています。



- 3 **伝染性紅斑**: 第 21 週は市全体で定点あたり 1.32 と、報告数が多くなっており、2011 年以來の流行となっています。流行の中心は 4~5 歳の幼児です。区別では、神奈川区(4.83)、都筑区(4.75)、青葉区(2.86)、緑区(2.75)、瀬谷区(2.25)と 5 区で警報発令基準値(2.00)を上回っています。伝染性紅斑は典型的なヒトパルボウイルス B19(以下 B19)感染症の臨床像です。B19 感染症で注意すべきものの一つとして、妊婦感染による胎児の異常(胎児水腫)および流産があります。

[伝染性紅斑について](#)(国立感染症研究所)

[横浜市感染症臨時情報: 伝染性紅斑](#)



- 4 **性感染症**: 4 月は、性器クラミジア感染症は男性が 33 件、女性が 16 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 5 件、女性が 7 件です。尖圭コンジローマは男性 3 件、女性が 0 件でした。淋菌感染症は男性が 14 件、女性が 0 件でした。
- 5 **基幹定点週報**: マイコプラズマ肺炎は第 17 週 0.25 の他、第 18 週~第 21 週にかけては報告がありませんでした。感染性胃腸炎(ロタウイルス)は第 17 週 0.75、第 18 週 0.50、第 19 週 1.00、第 20 週 1.00、第 21 週 0.33 と報告が多くなっています。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。
- 6 **基幹定点月報**: 4 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 4 件、薬剤耐性緑膿菌感染症 1 件の報告がありました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。

横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>